

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●レジオネラ症発生防止対策 3 原則

- ①レジオネラ属菌を「増殖させない」
- ②生物膜（ぬめり）を「発生させない」
- ③エアロゾルを「吸い込ませない」

レジオネラ症発生防止のためには、
レジオネラ属菌の繁殖場所となる入浴設備等の
日常の衛生管理を計画的に行う必要がある

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

①レジオネラ属菌を「**増殖させない**」

- 栄養源の除去や消毒により、増殖させない

⇒浴槽水を**適切な頻度で換水**し、**消毒を徹底**する

- 浴槽は毎日完全に**換水して清掃**する。
- 循環式浴槽で毎日換水しない場合でも、
1週間に1回以上完全に換水して清掃する。

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

①レジオネラ属菌を「増殖させない」

- 浴槽水の遊離残留塩素は0.4mg/L以上を保持する

→浴槽水の遊離残留塩素濃度は、頻回(1 時間、2 時間おきなど)に測定し、0.4mg/L以下にならないよう注意する

※遊離残留塩素濃度が高くなりすぎないように注意すること

(残留塩素濃度は、1.0mg/L程度までが望ましい)

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

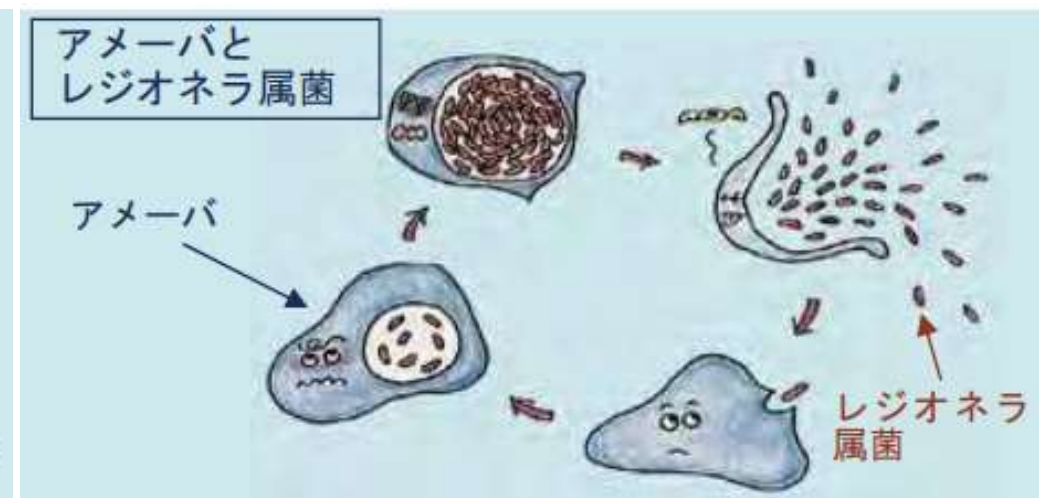
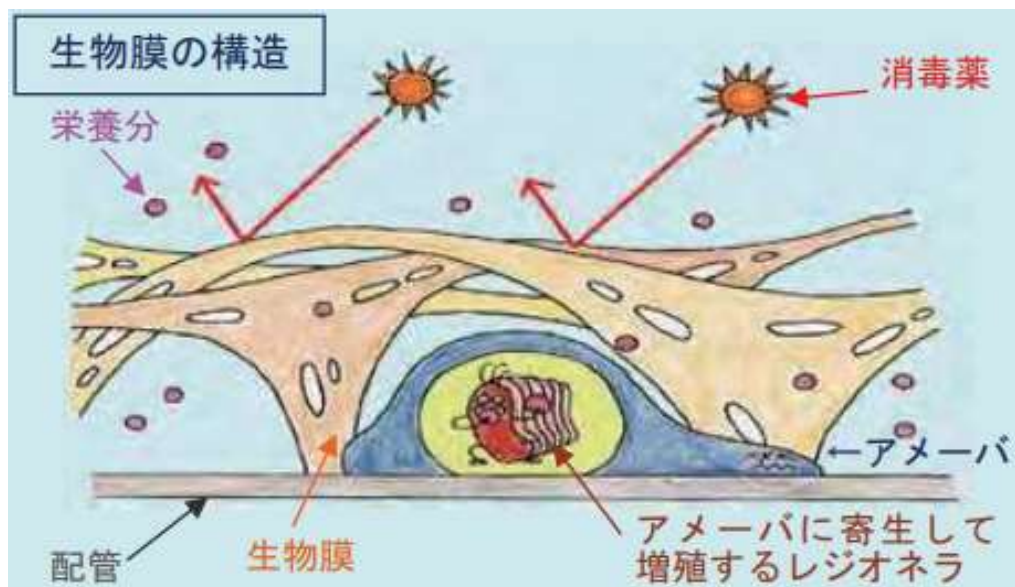
②生物膜（ぬめり）を「発生させない」

- ・生物膜の内部は、消毒薬の殺菌作用が効きにくい

→レジオネラ属菌の増殖の場となりやすい

重要！

- ・生物膜の生成を抑制し、発生したら速やかに除去する



出典：「公衆浴場・旅館業・プール施設管理者のための
レジオネラ症防止自主管理マニュアル」（東京都）

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

②生物膜（ぬめり）を「発生させない」

- 浴槽や循環配管、ろ過器等に生物膜を付着させない

→浴槽や循環配管、ろ過器等の洗浄及び消毒の徹底する

※集毛器や気泡発生装置、貯湯槽にも生物膜が

付着しやすいため注意が必要

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

②生物膜（ぬめり）を「発生させない」

- ろ過器は、週 1 回以上、逆洗し内部の消毒を行う
- 集毛器は、清掃を毎日行う（塩素消毒も行くと効果的）
- 循環配管は、週 1 回以上、高濃度塩素消毒を行う

→浴槽水の遊離残留塩素濃度を5～10mg/L程度にして、
数時間循環させる

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

③エアロゾルを「吸い込ませない」

- エアロゾルの発生を防ぎ、吸い込ませないようにする
- 循環させた浴槽水は、シャワーや打たせ湯等に再利用しない
- 気泡発生装置（ジャグジー等）は感染リスクがより高くなる

→遊離残留塩素は0.4mg/L以上を保持

通常の浴槽よりも
厳重な管理が必要

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

③エアロゾルを「吸い込ませない」

- 気泡発生装置の空気取り入れ口から土埃が入らないように
管理を行う
- 運転停止時に配管内で汚れが滞留するため注意が必要
 - 定期的に、空気取入口周辺、網、フィルターの点検・清掃を実施

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

● 設備の管理

- レジオネラ属菌が増えやすく、洗浄・消毒が難しい材質

⇒木や岩

- 洗浄・消毒が難しい場所・設備

⇒タイルの目地の破損部分、気泡発生装置、シャワー、カラン

洗浄・消毒は、
特に注意して実施

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●管理記録

- 維持管理記録の保管を行う

⇒浴槽水の残留塩素濃度測定記録、清掃記録等

- 定期的な水質検査結果の保管

⇒施設の実態に合わせ、水質検査を定期的を実施

※管理記録、水質検査結果は3年間保管する必要がある

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●浴槽、浴室の管理

- ① **洗浄剤**を用い、ブラシやたわしでこすり洗いをする。
- ② ぬめりの有無を確認し、生物膜の除去を確認する。
- ③ 浴槽の目地が欠けていたり、隙間がないか確認する。
- ④ 湯口の洗浄も行う。
- ⑤ 洗浄後、塩素系消毒剤等を用いた消毒を行う。

※清掃方法のマニュアルを作成し、作業の標準化を行う。

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●シャワーの管理

- ①シャワー内部に水が滞留しないように管理する。
- ②少なくとも週に1回、水が置き換わるよう通水する
- ③シャワーヘッドとホースは、6ヶ月に1回以上点検する。
- ④内部の汚れとスケールを1年に1回以上洗浄、消毒する。



シャワーを分解し、
浸漬消毒を行っている写真

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●集毛器の管理

- ①ろ過器に毛髪等が混入しないよう、ろ過器前に集毛器を設置し、清掃を毎日行う。
- ②カゴに溜まった毛髪やごみを取り除き、消毒する。
- ③集毛器内部の清掃を行い消毒をする。

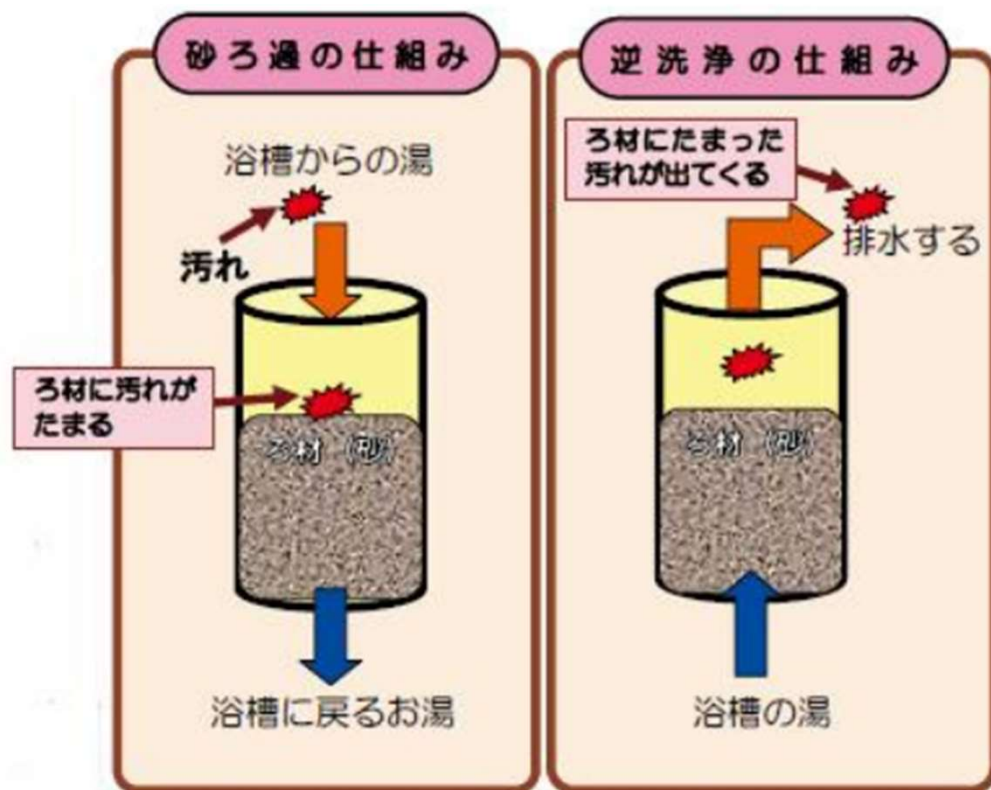


4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●循環ろ過器の管理

1週間に1回以上、逆洗浄を行い汚れを排出する。

※循環ろ過器は浴槽中の汚染物質を取り込む装置であるため、
レジオネラ属菌の温床になることがある。



ろ材の交換は適宜実施する
必要がある。

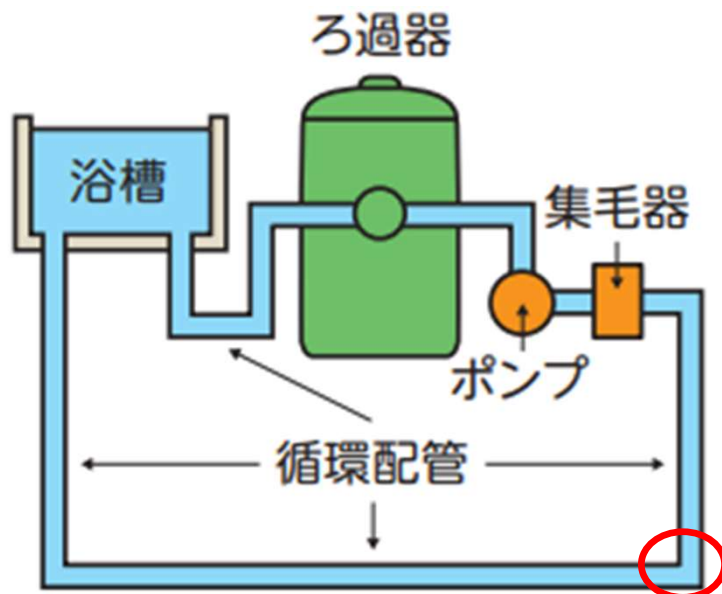
4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

●循環配管の管理

- 配管の屈曲部など、水が滞留しやすいところに生物膜が生成されやすい。
- 1週間に1回以上、配管の消毒（**高濃度塩素消毒**）を行う。

浴槽水の遊離残留塩素濃度を5～10mg/L程度にして、数時間循環させる。

- 生物膜は、塩素で微生物の細胞膜が破壊され、発泡する場合がある。
- 不要な配管は取り除く。



屈曲部は、水が滞留しやすい

出典：入浴施設におけるレジオネラ症防止対策（厚生労働省）

4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

高濃度塩素消毒：浴槽水の遊離残留塩素濃度を5～10mg/L程度にして、数時間循環させる。

2mg/Lまでしか測定
できないな
5～10mg/Lって
どうやって調整するの？



4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

高濃度塩素消毒：浴槽水の遊離残留塩素濃度を5～10mg/L程度にして、数時間循環させる。

- （浴槽水を減らして循環させる場合）

浴槽内＋配管内の水量を算出して、濃度を計算する。

〈塩素剤投入量算定式〉

塩素剤の必要量(mL) = 5～10mg/L × 水量(m³) × 100 ÷ 有効塩素濃度(%)

- （浴槽水の量を変えない場合）

普段の約10～25倍の量の塩素系消毒剤等を投入する。

- （高濃度まで測定できる塩素濃度測定器がある場合）

実際測定して、濃度を確認する。



※アルカリ性の浴槽水では、塩素系薬剤の効果が低下します。

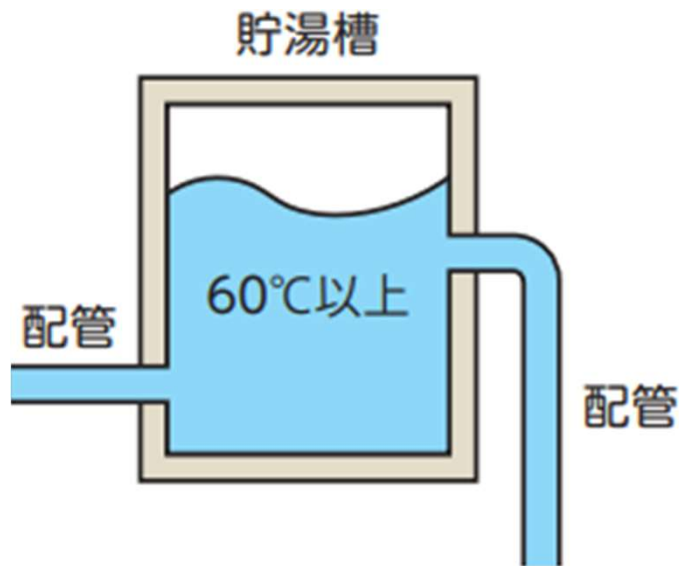
4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

● 貯湯槽の管理

- 槽内部では水が滞留しやすく、生物膜が生成しやすい。
- 湯温を60℃以上に保つ。

最大使用時でも55℃以上を保つ。

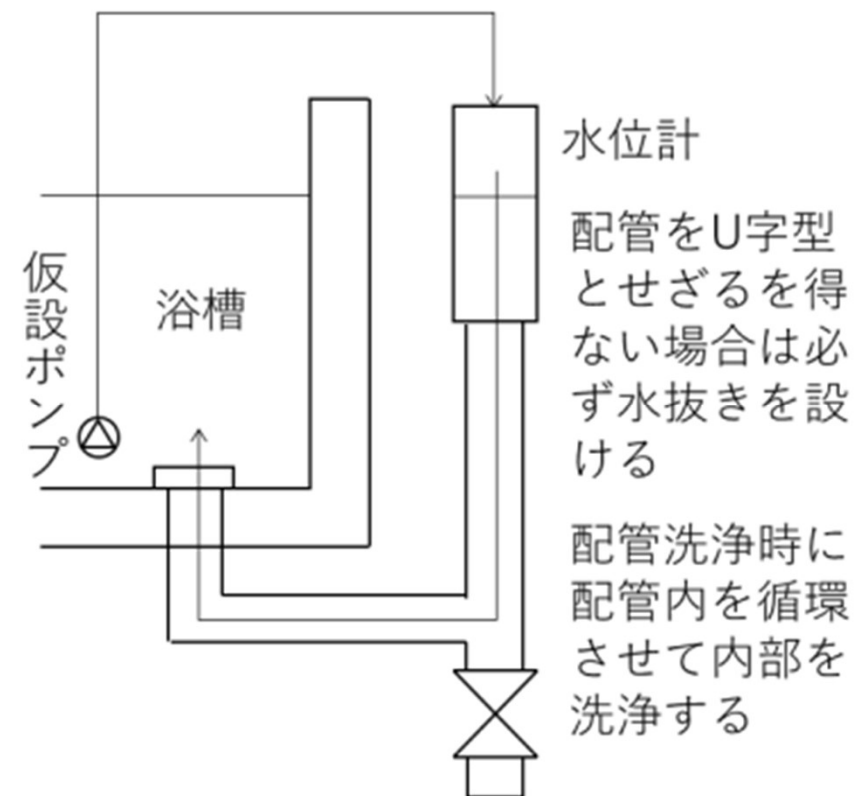
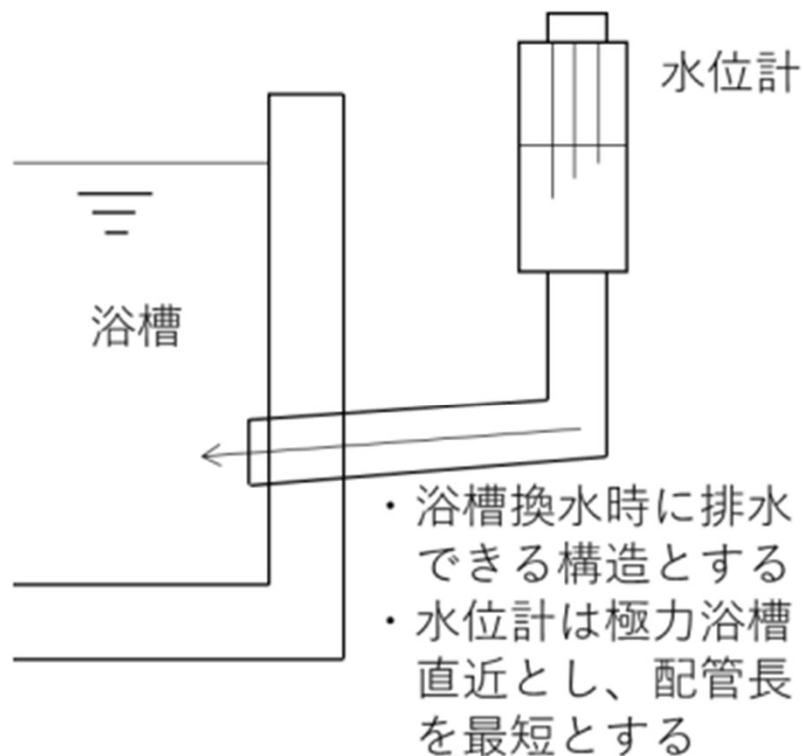
- 貯湯槽を60℃以上に保つことが出来ない場合、塩素消毒を実施する。
- 定期的に内部の洗浄及び消毒を実施する。



4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

● 水位計の管理

- 水位計の配管は浴槽水が滞留し、生物膜が生成しやすく洗浄が難しい。
- 使用する場合は、配管の清掃、消毒が適切に行える構造とする。



4. 浴室の洗浄及び消毒について（日常管理）

● 気泡発生装置等の管理

- 適宜清掃を行い、配管洗浄と同様に消毒を実施する。
- 消毒は、気泡発生装置等を運転しながら実施する。
- 定期的に空気取り入れ口の点検・清掃を行う。
空気取り入れ口から土埃が入らないようにする。
- 気泡発生装置等を使用する場合、毎日換水すること。

